

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員 }

福岡県病虫害防除所長

平成25年度病虫害発生予報第1号（4月）について

このことについて、病虫害発生予報第1号を発表したので送付します。

予報第1号

**ナシにニセナシサビダニの被害が増加**

ニセナシサビダニの成虫は体長が0.2mm程度と大変小さく、肉眼では確認することが不可能なため、ナシの葉に被害が生じて初めて発生に気付くことがほとんどです。徒長枝先端の柔らかい新葉を吸汁加害するため、被害葉は変形、褐変し、早期に落葉します。

成虫は、芽の基部や枝表皮の割れ目、枝の古い切り口等で越冬します。越冬後最初に被害が認められるのは、主枝、垂主枝及び予備枝の先端の芽から発生した新梢です。4月はこれらの部位を観察して、発生が認められる場合は、防除暦に従い防除を行ってください。



主枝先端の被害葉

**イチゴのアザミウマ類が一部地域で多発**



花床のヒラズハナアザミウマ



被害果

ヒラズハナアザミウマの雌成虫は体長約1.3mmで褐色～黒褐色、雄成虫は雌に比べてやや小さく淡黄色です。成虫や幼虫が花床を食害するので、被害果は、不稔になるか果皮が茶褐色になります。

地域によっては発生が多く、今後も増加することが予想されますので、発生が認められたら、直ちに防除を行ってください。

<予想される向こう1か月の天候（平成25年3月23日～平成25年4月22日）>

天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の平均気温、降水量及び日照時間は、平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並で、2週目は平年並か低いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気 温	30	40	30
降 水 量	30	40	30
日 照 時 間	30	40	30

（福岡管区気象台 平成25年3月22日発表抜粋）

4月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
麦類	赤かび病	—	並	並
イチゴ	うどんこ病	少	少	並
	ハダニ類	やや少	やや少	少
ナス	すすかび病	並	並	やや多
トマト	灰色かび病	やや少	やや少	少
キュウリ	べと病	並	並	やや多
	うどんこ病	多	多	並
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ			
	ナス	多	多	並
	キュウリ	少	少	少
	コナジラミ類			
	ナス	少	少	並
	トマト	並	並	並
茶	カンザワハダニ	並	並	やや多
	ミカンハダニ	少	やや少	並

\* 茶の発生量(現況)は裾葉の発生量

作物別発生予報

- 注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。  
 注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

【普通作物：麦類】

1 赤かび病

(1) 予報の内容

発生時期：平年並

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 向こう1か月の気象予報では、降水量は平年並(±)、開花期に当たる4月中～下旬の気温は平年並(±)の見込みである。

イ 農業総合試験場の調査によると、今後、気温が平年並で経過した場合、出穂期は小麦、大麦ともに平年並～2日程度早く、4月6～10日頃と予想されている(平成25年3月21日付福岡県米麦大豆生育情報参照)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病菌の主要感染時期は、開花期から開花期10日後頃である。

この時期に曇天・降雨が続き暖かい場合(平均気温18℃以上)は、多発する可能性が高い。

イ 防除適期は以下のとおり

- ・小麦では、開花期（出穂期後7～10日頃）～開花最盛期である。  
適期防除を実施後、降雨が続く場合はその7～10日後に、2回目の防除を行う。
- ・二条大麦では、穂揃期後約10日頃（出穂期後12～14日、蒴殻が抽出し始める頃）である。  
この時期は収穫前30日頃となるため、薬剤の選定に当たっては、収穫前規制に留意する。
- ・裸麦では、穂揃期（出穂期後2～4日）である。  
適期防除を実施後、降雨が続く場合はその7～10日後に、2回目の防除を行う。

ウ 出穂期は、播種日、品種及び今後の気温の変動等により、ほ場ごとに異なるので、ほ場をよく観察して適期に防除を行う。

エ 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば、降雨があっても薬剤の効果は認められる。

粉剤は散布後6時間以内に降雨があった場合、薬剤の効果が低下するため、天候に留意して散布する。

オ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 8の内容を確認の上、適切に実施する。

薬剤によっては、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる場合があるので注意する。

## 【野菜：冬春イチゴ】

### 1 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

発病株率 0.2%（平年 0.6%、前年 0.1%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている（±）。

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉、罹病果は見つけ次第処分する。

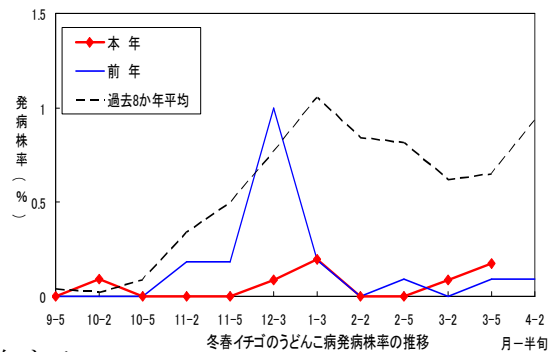
イ 下葉かぎ後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

ウ ハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

エ 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

オ 栽培が終了したら、罹病株は直ちに、ほ場外に持ち出し処分する。

カ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 8の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



### 2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年より少

(2) 予報の根拠

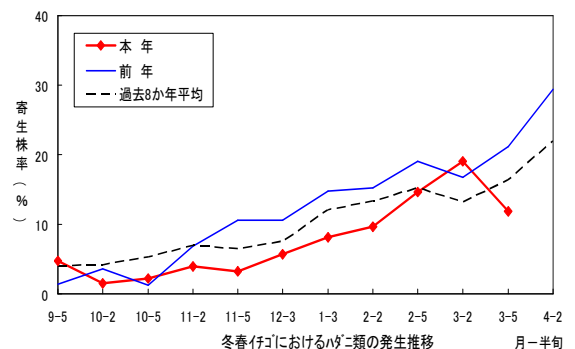
ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－）。

寄生株率 11.8%（平年 16.4%、前年 21.2%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている（±）。

(3) 防除上の注意

ア 防除は摘葉後に行うと効果的である。その際葉裏に薬剤が十分にかかるようにする。



- イ ほ場内と周辺の除草を徹底する。また、摘葉や除草した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。
- ウ カブリダニ類等を放飼しているほ場では、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布する。

## 【野菜：冬春ナス】

### 1 すずかび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 19.2% (平年 20.3%、前年 28.2%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている(±)。

#### (3) 防除上の注意

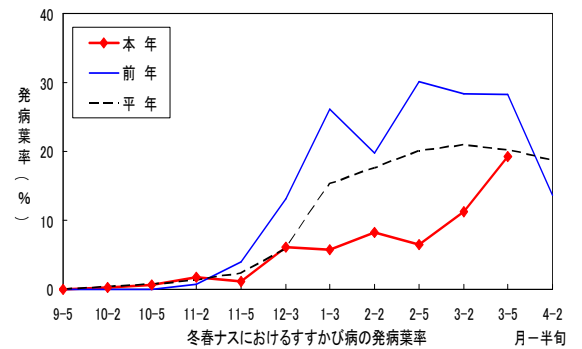
ア 着果負担等で、樹勢が低下すると発生が多くなるので注意する。

イ 病徴が進展してからでは防除が困難なので、発病初期に防除を徹底する。

ウ 罹病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

エハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

オ 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 【野菜：冬春トマト】

### 1 灰色かび病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年より少

#### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった(-)。

発病果率 0.2% (平年 0.6%、前年 0.5%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている(±)。

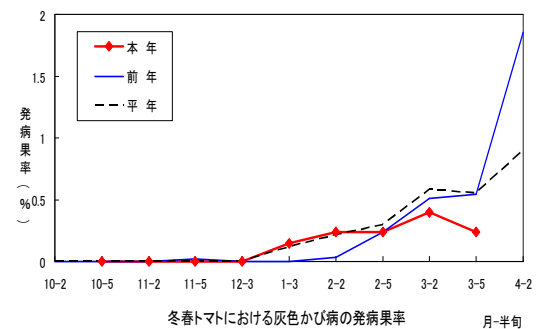
#### (3) 防除上の注意

ア 罹病葉、罹病果は見つけ次第処分する。

イ 開花後の萎れた花卉や葉先枯れは、伝染源となるので取り除く。

ウハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

エ 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 【野菜：冬春キュウリ】

### 1 べと病

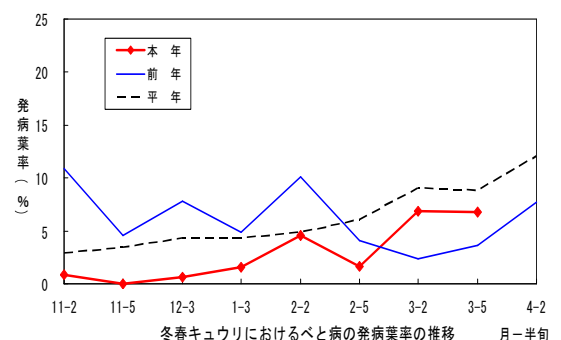
#### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

#### (2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 6.8% (平年 8.8%、前年 3.6%)



イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている（±）。

(3) 防除上の注意

ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、初期防除を徹底する。

イ 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。

ウ ハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

エ 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

## 2 うどんこ病

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった（+）。

発病葉率 7.7%（平年 1.5%、前年 2.0%）

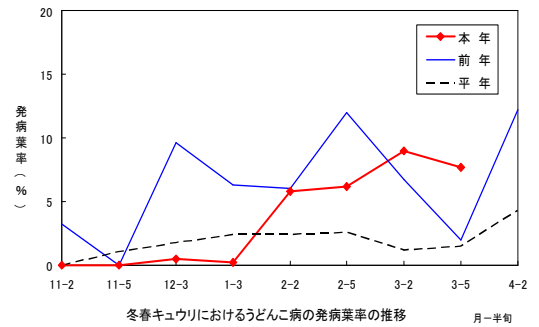
イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている（±）。

(3) 防除上の注意

ア 罹病葉はできる限り除去するとともに、葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。

イ ハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



## 【野菜共通】

### 1 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：ナス 平年より多、前年並  
：キュウリ 平年・前年より少

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は

ナスでは平年より多かった（+）、

キュウリでは平年より少なかった（-）。

ナス寄生葉率 13.6%（平年 7.1%、前年 6.1%）

キュウリ寄生葉率 0.3%（平年 6.2%、前年 1.9%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている（±）。

(3) 防除上注意すべき事項

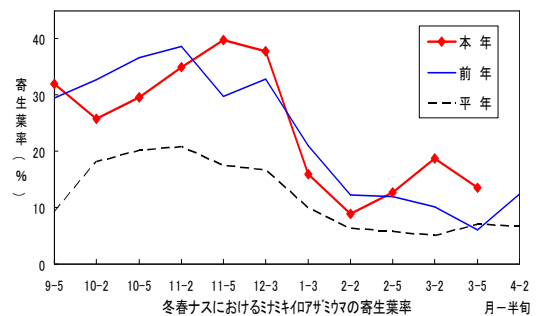
ア ほ場内外の雑草を徹底して除去し、害虫の生息、増殖源を絶つ。

イ 葉裏への寄生が多いので、散布むらがないように丁寧に散布する。

また、多発した場合は、約一週間後にもう一度薬剤散布を行う。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

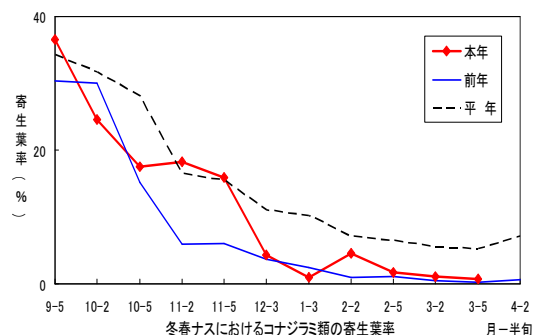
エ 本種は、キュウリ黄化えそ病（MYSV）の媒介虫なので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出す。



## 2 コナジラミ類

(1) 予報の内容

発生量：ナス 平年より少、前年並  
：トマト 平年・前年並  
：キュウリ 平年・前年並



(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量はナスでは平年より少なかった(－)、トマトでは平年並であった(±)。

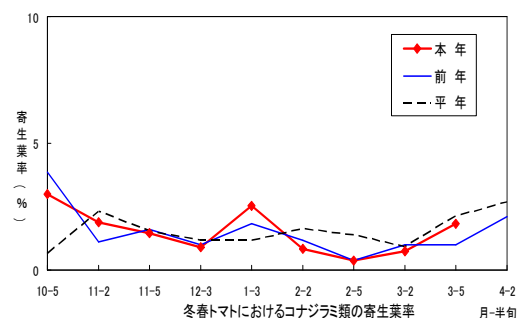
キュウリでは平年並であった(±)。

ナス寄生葉率 0.8% (平年 5.3%、前年 0.2%)

トマト寄生葉率 1.8% (平年 2.1%、前年 1.0%)

キュウリ寄生葉率 0.4% (平年 0.8%、前年 1.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている(±)。



(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場内外の雑草の除去を徹底し、害虫の生息と増殖源を絶つ。

イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。

ウ 葉裏や下位葉にも、薬液が十分かかるよう散布する。

エ 施設栽培では成虫の飛び込み防止のため、0.4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

オ 本種は、トマト黄化葉巻病 (TYLCV) ・キュウリ退緑黄化病 (CCYV) の媒介虫なので、発病株は早期に抜き取り、ほ場外へ持ち出す。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>罹病果は感染源になるので、見つけ次第除去する。また、下葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。</li> <li>ほ場周辺の雑草の除去を徹底する。</li> </ul>
アザミウマ類	多	多	多	
冬春ナス 灰色かび病	並	並	やや多	<ul style="list-style-type: none"> <li>開花後の萎れた花卉、罹病葉や罹病果実は、伝染源となるので早めに除去し、ほ場外へ処分する。</li> </ul>
冬春トマト 葉かび病	少	少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>抵抗性品種を栽培しているほ場でも、発生しているため、予防散布を行う。</li> </ul>
冬春キュウリ 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>開花後の萎れた花卉に、灰色のかびを認めたら、防除を開始する。</li> <li>初期防除を徹底する。</li> </ul>
褐斑病	少	少	並	

【果樹：かんきつ】

1 ミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(－)。

寄生果率 0.5% (平年 5.2%、前年 1.4%)

発生ほ場率 41.7% (平年 43.1%、前年 45.5%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている(±)。

(3) 防除上の注意

- ア 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤の連用は避ける。
- イ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 8の内容を確認の上、適切に実施する。

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (4月の発生予想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ そうか病	やや少	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発芽直後～展葉期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。</li> <li>・罹病葉は伝染源になるので除去する。</li> <li>・薬剤防除は発芽前・開花前の雨前予防散布が重要である。</li> </ul>
かいよう病	やや少	やや少	並	
ぶどう 黒とう病	—	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頂芽の展葉2～3枚期の薬剤防除を徹底し、初期発病を抑える。</li> <li>・罹病枝や巻きひげは除去する。</li> </ul>
かき 炭疽病	—	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新梢の伸長始めから硬化前まで感染するので、罹病枝の除去と栽培管理を徹底する。</li> <li>・薬剤防除は、天気予報の最高気温と最低気温の和が40℃以上で、降雨が予想される日の直前から開始する。</li> <li>・越冬幼虫の新梢への移動時期（4月下旬頃）から、薬剤防除を徹底する。</li> <li>・防除薬剤は天敵に対して、悪影響が少ないIGR系殺虫剤を活用する。</li> </ul>
フジコナカイ ガラムシ	—	並	並	
なし 黒星病	—	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬剤防除は、開花直前から満開20日後が最も重要な時期である。</li> </ul>

\*ぶどう、なし、かきの発生量（予想）は、平成24年の調査結果及び気象予報から予想。

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

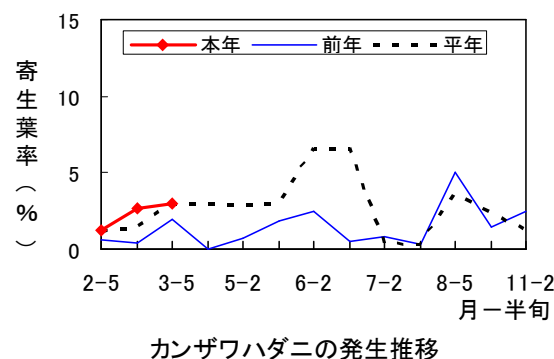
ア 3月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

寄生葉率 3.0%（平年 3.0%、前年 1.9%）  
 50葉当たり虫数 3.6頭（平年 2.9頭、前年 2.5頭）  
 発生ほ場率 55.6%（平年 51.9%、前年 35.3%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温及び降水量は平年並とされている（±）。

(3) 防除上の注意

- ア ほ場をよく観察し、寄生葉率が2%以上の茶園では防除を行う。
- イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
- ウ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 8の内容を確認の上、適切に実施する。



# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等に関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

## 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

## 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

## 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

## 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

## 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

## 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>  
電子メール [kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)